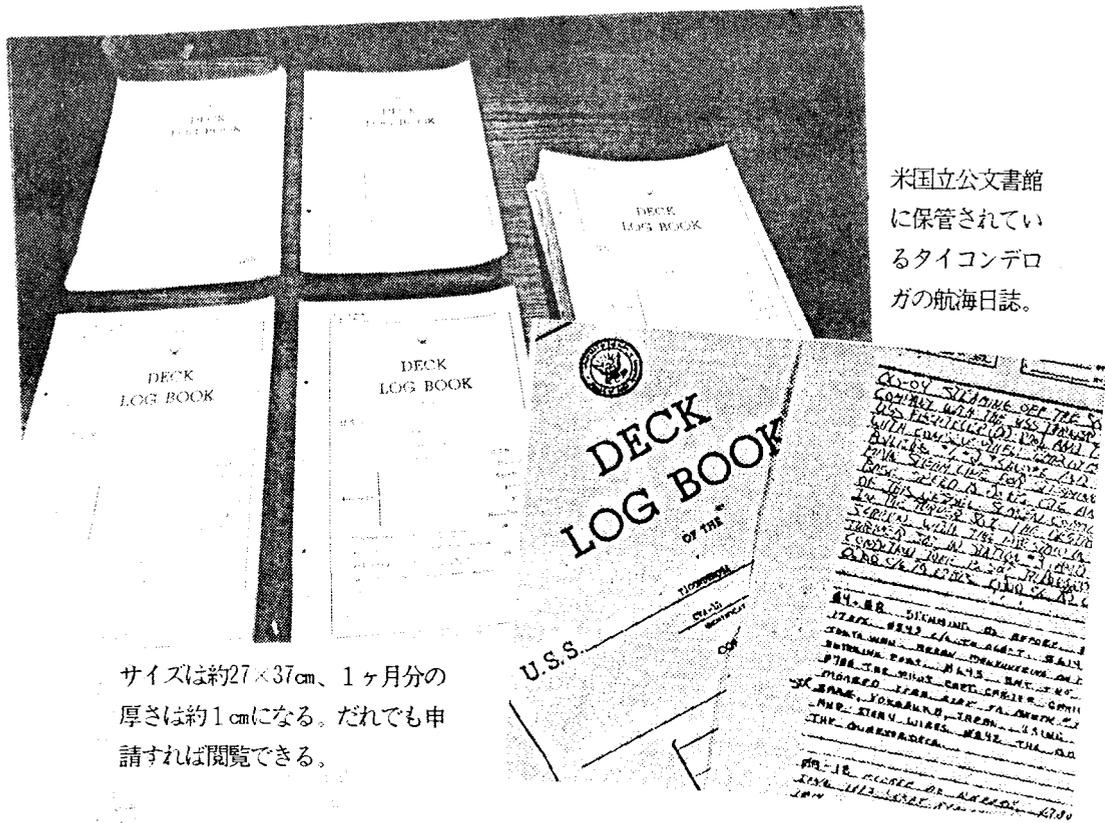


月刊反トマホーク通信

No. 49
89.11.20
定価 100円

〒150 東京都渋谷区渋谷2-5-9 パル青山502 トマ喰い虫社 ☎03(498)6095 044(63)5101 FAX.044(63)9907
郵便振替 東京6-136148



米国立公文書館
に保管されてい
るタイコンデロ
ガの航海日誌。

サイズは約27×37cm、1ヶ月分の
厚さは約1cmになる。だれでも申
請すれば閲覧できる。

特集●タイコンデロガ事件

どう考えても、核は持ち込まれていた

また2隻！ トマホーク艦の横須賀母港化計画

第 回全国会議の報告／長崎の平和運動

仏核疑惑艦と非核三原則

トマホークの配備を許すな！ 全国運動

●維持会員（月間会費）

団体 1口 2000円
個人 1口 1000円

●参加会員（月間会費）

団体 1口 1000円
個人 1口 500円

●通信会員

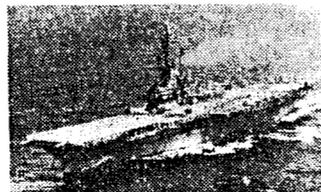
年間 1口
2000円

あなたも仲間！（会費は本誌購読料を含みます）

核は持ち込まれていた

●タイコンデロガ事件

ジョシュア・ハンドラー氏
(グリーンピース)が、来
日し、証言。



タイコンデロガ事件の発覚から半年が過ぎた。日本政府は依然として真相を「米圏に照会中」としている。しかし、一体なにをどのよう「照会」しているのか。文書によってなのか、電話で聞いただけなのか、それすら明らかにしていない。当初、「真相究明」を強く求めた自治体も「政府の責任」であると、動こうとはしていない。これまでの「核疑惑」がそうであったように、この事件もまた、この国の「外交なき外交」と「民主主義なき政治」の中でうやむやのうちに人々の記憶から消えてしまおうのだろうか。政府がそう願っているように。

動かしようのない事実

講演(十六日)、葉山非核自治体協議会議長(藤沢市長)、横須賀市渉外部長との会見(十七日)、長洲神奈川県知事との会見(十八日)のほか、横須賀(十二日)、横浜(十七日)で市民集會に出席し、証言した。



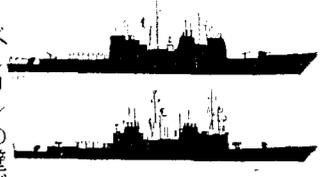
ハンドラー氏(転写)



十一月十一日から十九日にかけて「グリーンピース」の研究者でタイコンデロガ「航海日誌」の発見者であるジョシュア・ハンドラー氏(29才)が来日した。同氏は一九六五年一年分の「航海日誌」のコピーとこの文書の保管状況を示す写真、そして核持ち込みを決定的にする新たな海軍公式資料「司令官報告(Comreport)エピソード」をたずさえて東京で記者会見(十四日)、土井社会党委員長との会見、議員懇談会での

「航海日誌」と「司令官報告・六十六年版」(タイコンデロガの艦長が海軍作戦部長などに提出した公式文書)によれば、タイコンデロガは事故を起こした後、十二月十六日に横須賀を出港、特殊作戦海域(ベトナム)の通称ヤンキー・ステーション(北部沿岸の「北爆」のための作戦海域)に向かった。その後翌六十六年二月二十一日に佐世保に入港するまで、ヤンキーステーションとベトナム南部沿岸のデキリーステーション(メコンデルタの解放勢力を攻撃する作戦海域)を往復しな

(十一頁へ)



また二隻!!

新たなトマホーク艦母港化を止めよう

ベルリンの壁が崩れさった今、なぜ太平洋にこれ以上の「核の壁」を築かなければならぬのでしょうか。世界の軍縮の流れに逆らって、日本はどこへ行くかとしているのでしょうか。

アメリカ海軍は十一月十日、二隻のトマホーク艦の横須賀母港化計画を発表しました。現在母港としている二隻の艦と交替に来年中にやってくるのは、モービル・ベイ(タイコンデロガ級巡洋艦)とヒューストン(スプルーアンズ級駆逐艦)。去年母港化されたバンカーヒル、ファイフとまったく同じセットです。どちらもトマホーク発射可能な垂直発射装置(VLS)を装備し、モービル・ベイは六、ヒューストンは十一の核トマホークを搭載していると推定されます。もう、いかげんにするべきです。「かれら」に、そう言ってやりましょう。母港化を止めて九十年代を希望の時代へ：流れをかえましょう!

フランスの核疑惑艦が入港

●(記事10ページ)
(11/3鹿兒島、11/10 横須賀)

19891106 (長崎)

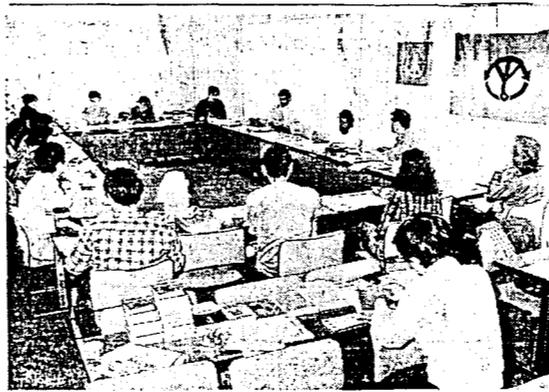
核艦船の寄港禁止を

反トマホーク 全国会議 行動計画決める

●記事4ページから
長崎

「トマホークの配備を許すな! 全国運動全国会議」は五日、長崎市筑後町の県教育文化会館で開き、核艦船の寄港禁止やトマホーク艦の母港化撤回の世論の盛り上げなど行動プログラムを決め、三日間の会議を終えた。

このほかリムパックやチム・スピリットなど多国籍の軍事演習の反対キャンペーンを強化していくことを決めた。



核艦船の寄港禁止など行動プログラムを決めた全国会議。長崎市筑後町、県教育文化会館

米海軍、日本の港調査

長崎など 31カ所 修理施設や食糧調達

米海軍が日本国内の主要港三十一カ所について港の状況や修理施設、食糧の入手方法を四十二項目にわたって詳しく調べ、それを「港湾案内」という資料にまとめて金米軍艦に配備していることを三日、反核団体「トマホーク」の配備を許すなど、全国運動(事務局・東京)の梅林安道代表が長崎市で明らかにした。同団体が参加している世界規模の市民団体「海の軍備撤廃を太平洋運動」(事務局・米カリフォルニア州)が米国の情報公開法に基づいて入手したもので、日本で公になるのは初めて。レストランや医療機関の紹介などワイドブック的な面もあるが、梅林代表は「有事に備えての調査であることは明らか」と反論している。

「有事へ備え」市民団体 反トマホーク 発表

この資料は「港湾案内第五巻」のは今年六月までに改正された「太平洋の部」。ハワイにある米海軍省艦隊情報センター・日本は第何(北海道)から新潟、横浜、熱海、名古屋、大阪、松山(石川)に中城湾(沖縄)まで主要三十一港を約二百にわたって網羅している。一九七四年に初版を出し、今回入手した内容は、各港に入港した艦艇

の艦長がアンケートに答える方式。質問は①航海情報の接岸方法②サードピス、補給など③訪問の相手④その他に大別され、計四十二項目。九月に全文を入手。現在、各港について翻訳と分析を進めており、全巻が分かるのは一月後。この日は長崎港の分だけが公表された。長崎港の案内は、八六年十一月に入港した海難救助艦ビューフォート(約二、九〇〇トンの艦長報告が中心。港の収容能力は、フリゲート艦が四隻、巡洋艦なら二隻、巡洋艦なら一隻が接岸可能とし、レストランやホテルは固有名詞で紹介している。艦艇修理には、三菱重工長崎造船所をあげ、いかなる種類や規模の修理もできると評価。しかし、長崎が被爆地である記述はなかった。

また、当時の在日米海軍司令官「ビューフォート」の十九年ぶりの長崎寄港は極めてうまくいった。抗議やデモがなかったのも、非常に良い兆候であったとコメントを寄せている。こうした案内によって米海軍が長崎市民の感情を誤って判断し、今年九月、核実験が持たれるフリゲート艦ロードニー・M・デイビスの強行入港と「浪花事件」につながった可能性もある。

●港湾案内

11月3日長崎で、記者会見発表。11日には呉でも発表し、大きく取りあげられた。近く、全国31の港すべてについての内容を発表したい。

梅林代表は「これまで通り核懸念の密着について非核三原則の順守を訴えていくことはもちろんだが、運送兵器を積んだ艦艇の入港にも目を光らせる必要がある」と話した。長崎市で反基地・反核運動をする「ピースバス長崎」の代表、舟越歌一・長崎大助教授は「これまで入港目的を乗組員の休養や親類といっていたが、ウソであることがわかった。計画

長崎の平和運動

被爆地長崎に兵器生産は似合わない

反トマホーク 全国会議を迎えて

去る九月十五日、長崎へ「日米安保条約」がやってきました。「核疑惑」を満載して。急なことでありましたが、米第七艦隊ミサイルフリゲート艦デイビスが出港するまでの七日間、連日さまざまな抗議行動をやりました。県と市への申し入れ、米大使館と領事館への抗議電報、英文のプラカード、ステッカーの作成、集会、座り込み等々。その中でも、全国に大きく報道されたのは平和公園での献花阻止の座り込みと被爆者による花輪踏み付けでした。その後、この件は市内の他の被爆者による告訴、告発へと発展し、事態は思わぬ方向に矮小化されようとしていました。

そこで、第十一回反トマホーク全国会議の開催が長崎に打診された時、私たちはデイビス入港の歪曲化を一挙に方向転換せしめるものとし

て、この会議を引き受けることにしました。結果として、梅林氏による「港湾案内」の公表が、予想通り、長崎の雰囲気をも根底的に変化せしめたことは言うまでもありません。被爆者団体も労働団体も、花輪踏み付けの正当性に確信を持ったばかりか、この「港湾案内」の長崎版を重要な論拠として、今後の反核運動の展開に大きな足跡をつけようことを心より喜んでいきます。この点、長崎として大いに感謝いたします。

さて、長崎の平和運動について何か書いて欲しいということですが、言うまでもなく、長崎では複数の被爆者団体による反核運動があり、長崎市では平和推進協会という半官半民の団体による平和運動があり、さらには、三菱の同盟と対峙する県評を中心とする労働

舟越歌一 (ピースバス長崎・代表)

者の平和運動も全国に比をみないほど健在であります。このように、実に多様な平和運動が展開されている長崎で、被爆者でもなく、組織もない、フツウの市民による平和運動が登場したのは四年前のことです。半年以上の準備期間をおき、地区労・県評にも話をつけて、一九八六年八月一日に、三菱の兵器生産に反対することをメインスローガンとする「ピースバス長崎」という市民運動が発足しました。

その基本的な動機は、「被爆地長崎に兵器生産は似合わない」とスローガンに示されています。町の真ん中に魚雷工場があり、年一隻の割りで軍艦を建造し、港に軍艦が浮かんでいない日は一日たりともないという軍需都市長崎が、ただ外に向かってノーモア・ナガサキを訴えるのは自己欺瞞だと考えたのです。

従来の長崎の平和運動、反核運動は、きわめて抽象的で一般的なものでした。それは、誰も傷つかないし、目に見える対決点のない運動でした。そこで私たちは、産軍複合体としての長崎とその兵器生産にこそ、私たちの反戦反核のエネルギーを向けるべきであると考えたのです。

そのためには、まず兵器生産の実態を知ろうということになり、バスを貸して、家族づれで兵器工場を見て回ることにしました。「ピースバス」の由来はここにあります。

ピースバス長崎の誕生は、長崎の市民運動を一挙に活気づけることになりました。翌年には八月一日から九日まで「ピースウィーク」と名づけて手づくりの市民的平和運動をやり、そのエネルギーで「市民運動ネットワーク長崎」が生まれ、また「原発なしでくらしたい長崎の会」が育ってきました。目下のところ、右の二つの他に、ネットワークに結集している市民団体は、右の二つのほかに、被爆二世救職員の会、長崎女の会、長崎の教育通信、長崎YWCA、マスコミ共闘、日独平和フォーラム、通訳グループのMUP、平和を考える会、言論の自由を求める市民の会など多数の団体があります。「怒りない面々と凝り性の面々」が、共同して事務所を借り、会議室、連絡場所として使用し、あらゆる運動に共同し

て取り組んでいます。

私たちの平和運動の戦略は、一つには、地域社会から平和をめざすということです。徹底的に長崎にこだわり、ながさきで平和への道を見つけれずして、どこでみつけれようかと考えています。二つめには、生活の流儀に生き方の問題としての平和運動ということとです。男だけがハチマキをしめていきりたつ運動ではなくて、家族ぐるみで、一人ひとりが主体的自主的に運動を作りあげようということとです。そのほか、書きたいことはたくさんありますが、現在の日本周辺の軍拡状況は「長崎から全国が見える」状況になってい

●反トマホーク運動第十二回全国会議の報告

全国非核自治体アンケート

など行動計画を決める

11/3~5
長崎にて



タイコンデロガの水爆水没事故、太平洋演習PACEX、とどまることのない日本の軍拡。このどこに、どのように風穴をあけるのか。話題の町、長崎にトマ喰い虫たちがあつまり、第十一回全国会議が開かれた。昨年十一月の東京・町田での会議からちょうど一年

あて、核艦船寄港反対の国民的世論を作り、政府の「非核政策」に変更を迫る。

- *自治体、地方議会への世論を強める
- *米軍艦(デイビス号)の入港に際して「非核証明要求」の立場を貫いた長崎市につづく自治体をつくる
- 二 「海のチエルノブイリ」への関心を高める。タイコンデロガと「デイビスレポート」をつなげる。
- 三、日本の軍拡への関心を高める。
- 四、住民の生活と人権の立場から基地を問題にしてい

行動プログラム

一、トマホーク艦母港撤回、核艦船寄港禁止のために、

- ①フランスの核疑惑艦の鹿児島、横須賀入港への抗議を各地からフランス大使館、領事館に届ける。
- ②タイコンデロガ号問題の国会での追及のため努力する。
- ③全国の非核宣言自治体を対象にタイコンデロガ号問題に関するアンケート調査を行う。
- ④タイコンデロガ号問題のリーフレットを作る(政府に真相究明を求めるハガキをは

ぶりである。

三日、開会に先立ち記者会見発表した米軍の「港湾案内」は地元メディアに大きくとりあげられた。同日午後のシンポジウム「核まみれの九州」には長崎、佐世保、鹿児島、福岡、熊本など各地からの報告があった。おりしも、米軍艦が佐世保、福岡、別府、鹿児島に同時入港し、九州全体でのネットワークの必要性が実感をもって語られた。

四日は午前中「ピースバス」に乗り、被爆地長崎のなかにある軍事産業・三菱長崎造船



トンネル工場で三菱の労働者から説明を聞く。

課題
一、トマホーク艦の母港を撤回させ、核艦船をどこの港にも入れない。
二、日本周辺(北西太平洋)に軍縮の流れを作ろう。

アプローチ

一、タイコンデロガ号問題に引き続き焦点を

反核ホット ライン

20 だより

入港情報

- 89・10・21～11・20
 - P級II (原子力潜水艦パーム級)
 - S級II (原子力潜水艦スタージョン級)
 - L級II (原子力潜水艦ロサンゼルス級)
 - (10・29) ヘレナ(L級) 午後4時 横須賀に入港。トマホーク対象艦。
 - (11・6) ヘレナ(L級) 午前10時 横須賀を出港。
 - (11・18) フラッシュャー(P級) 午後2時 横須賀に入港。
- *1989年11月20日現在各港への原子力艦の入港回数は、
横須賀 28回(うち原潜27回)
佐世保 2回(うち原潜2回)

核疑惑艦 相次ぎ入港

10月22日、朝、佐世保にビンセンズ(イギリス巡洋艦)とエリオット(駆逐艦)が佐世保に入港した。これは、PACEXがらみで入港したものと考えられる。

ビンセンズは、核、非核両用の対潜魚雷アスロックを装備している。また、88年7月、ペルシャ湾でイラン航空の旅客機を撃墜する事件を起こしている艦艇である。また、エリオット(駆逐艦)はVLS装備しており、核トマホーク搭載艦である。

また、11月3日に鹿児島をして、11月10日には横須賀に、核爆雷搭載可能な対潜水ヘリコプター二機を積んだフランスの駆逐艦デュプレックスなどが入港した。日仏親善が目的とのこと。

日仏間には、日米間のように核についての事前協議の取り決めはなく「外務省は、日本の非核三原則は知られているから、核持ち込みはありえない」とし、「核兵器の搭載の有無の確認」を求めた神奈川県などの要請を拒否している。仏の核兵器搭載可能艦は、デュプレックスと同級の駆逐艦ラモット・ピケが88年に東京の晴海に入港以来である。



原潜のヘレナ(10・29入港)を含めれば、核艦船の入港は、もう日常的に行われることがあらためて痛感させられる。相次ぐ核疑惑艦の日本への入港は、非核三原則の空洞化に一層の拍車をかけることになり、非核政策に関する日本政府の相変わらずの主体性の無さがますます鮮明となった。そこで問われるのは、それを許してしまっている私たちの問題でもある。一層の世論の盛り上がりを作る事が急務である。

原子力艦入港情報

テレホンサービス
ブッシュホンで、まず 井8301、そして連絡番号 968・1071、次に暗誦番号 1071
クロハ イレナイ

さむ)

⑤ タイコンデロガ号の航跡をたどる海上ツアーを計画する。

⑥ 「港湾案内」を使って、各地で世論を喚起する。可能な限り地域メディアに発表し、その後全体としての報告書を作成する。

⑦ タイコンデロガ号問題に関しては、真相究明を求める署名運動も検討する。

二、平和船団をさらに拡大する。

現在約二十隻。一〇〇隻を実現しよう。

「平和船団ノート」を作る(担当は横須賀)。

三、多国間軍事演習を止めよう!

① RIMPAC90(環太平洋合同演習)反対の全国キャンペーンを展開する。

* 解説リーフレット、チラシを作る。

* 日本、韓国、アメリカ政府に中止を要請するハガキ運動を起こす(二月から四月)。

* 四月二十一、二日の「海の軍備撤廃のための国際行動ウィーク」をRIMPAC反対の全国同時行動日とし、全国で同時行動をする。

② PACEX広域監視活動の報告集を作る。

③ 米韓合同演習「チームスピリット」反対の行動を全国で。

四、NEPAの全の運動に積極的に参加協力する。

五、「中期防衛力整備計画」(来年度で計画期間満了)への異議申し立てを行う。

* 日本の防衛にとって無関係なものの削除を要求する。

* 「思いやり予算」をチェックする。

六、周辺住民の人権、生活を侵害する基地へのたたかい。

* 核事故の被害を訴える。

* 弾薬などの危険物、騒音への異議申し立て。

七、国際的な協力を重視して活動していく。

運営方針

一、運動名称は当面変更しない。

二、「トマ喰い虫ワーキング・グループ」の設置について了承する。

三、「月刊反トマホーク通信」を九〇年一月号(第五十一号)から「月刊トマ喰い虫」に改題する。

四、出版プログラム

* 「基地ファクトシート」を作る。横須

賀、佐世保、呉などでモデルを作り、再度各地に協力要請する。

* 反トマ運動の紹介リーフレット。

* 解説「潜水艦戦争」

* 非核独立太平洋運動を知るパンフレット(来年三月出版予定)

* デイビス・レポートのビデオ化

五、「平和資料共同組合」の趣旨の重要性を確認し、実現に向けて前向きに検討する。

六、反核ホットラインを強化する。

七、情報コーディネーターに各地の情報、切抜きなどを集中する。

次回の全国会議の開催地は横須賀を第一候補とし、検討をお願いするようになりました。

(湯浅一郎)トマホークの配備を許すな!
呉市民の会/反トマ全国運動運動コーディネーター)



鹿児島から

フランス核艦船の入港と 非核三原則

毛利淳二
「いま鹿児島で何ができるか」を考える会

十一月三日、フランスの駆逐艦デュプレ、フリゲート艦アミラル・シャルネ、洋上補給艦ソムが鹿児島港に上陸した。このうちデュプレは核爆雷装備可能な対潜ヘリコプター二機を搭載しているといわれている。仏海軍はかねてから親善のためと称する「軍艦外交」をポリシーの一つにしている。この度のアジア歴訪(日本、韓国、フィリピン)も親善目的というが、よりによって核疑惑艦とはまことに物騒な使節といわなければならない。

フランスのアジア・太平洋地域における軍事的プレゼンスは、戦前および戦後初期までは内陸部の仏領インドシナ(今のベトナム・ラオス・カンボジア)を中心にしてきたが、今日は太平洋ポリネシアのうちタヒチ・ムルロアを包含する一帯、およびネラネシアに属

するニューカレドニアを拠点としている。その目的がムルロアを中心とする核実験場(ここでフランスは一九六六年から七四年まで四十四回の地上核実験、百十一回の地下核実験を行っている)を守護するためであり、原住民の独立運動を抑圧し植民地支配を維持するためであることは明らかである。これは今年二百周年祭が祝われているフランス革命の精神、自由・平等・博愛に相反する所業というべく、こうした背景をあわせ考えれば、一そう歓迎されざる客といふべきであろう。

政府は日米安保体制の下でも非核三原則を堅持するといひ、事前協議制がそれを保証しているとしているが、軍事的見地を最優先し核の有無は一切明らかにしないという米国の立場との間に、繕いえない矛盾が存在することはいままでもなく、ライシャワー発言、ラ

ロック証言、タイコンデロガ事件等々次々にその虚構を露呈しているのである。
ところで今回はフランス軍艦である。安保条約の下で従来の運用慣行に拘束されている米艦の場合とは、おのずと異なった対応がありうる、つまり、核の有無を問いつけて確認する手続きを取ることもありうる、と一応はいえるだろうが、今の政府ではもとより空しい期待でしかない。実際、「わが国の非核三原則は国内外に知られており、フランスはこれを尊重して行動するはずだ。核兵器の搭載能力をもっていることと、現実に搭載しているかは別問題。親善のための寄港であり、外務省は搭載を想定していない」というのが外務省の言であり、なにかやっただ形跡はない。これはフランスに対する配慮だけでは無はず。配慮といえどもむしろ日米安保に対する配慮であろう。事前協議制でとっている「問わず」の原理をなんとしても崩すわけにはいかないからである。一度フランスに核確認を求める実績を作ったなら、なんでアメリカにはやらないのか、ということにならざるをえない。八十二年末寄港計画が問題化した英空母インビブルの場合もきわどかった。同艦は核搭載機(デュプレ同様対潜ヘリの核爆雷)を理由に豪政府からシドニーの乾ドックの使用を断られたばかりだったし、そのことで

アメリカが豪政府に強い懸念を表明している。そんな時期だったから、相手が早々に計画を中止してくれたので、日本政府としては「問わず」の方針を問われずにすんで助かった。

もし今回日本政府が核抜き点について確認を求めたら、フランス政府はどう対処したであろうか、と想像してみるのも、あながち無駄ともいえないであろう。フランスに核の有無を明らかにしないという原則があったとしても、米国とは違った反応がありえたかもしれない。というのも、次のような事実があるからである。七十五年に神戸市議会は核兵積載艦艇の入港拒否の決議を行い、以降当該大使館に「非核証明」の交付を求め、それを持たない船の入港を拒否する制度を採用しているが、以前には四三二隻の入港があった米国の艦船が、それ以降は一隻も入港しなくなったのは、米国の「言わず」の立場がそうさせたのだから、核保有国の船ではフランスの艦艇だけが、その後も「非核証明書」を用意して神戸に入港しているのである。ヘリ空母ジャンヌダルク、駆逐艦ホルピン、それに今回鹿児島に来たアミラル・シャルネなどである。つまり今度もあえて求められれば、フランスが非核証明をすることも(もちろん実際に核抜きの場合だろうが)決してありえない話ではなかった。それだけになおさら政

府としてはそうするわけにはいかなかった。非核三原則厳守の神戸港にはもはや米艦船は入れない。こうした事実は、日本政府の現在の行動様式を規定するものがどこにあるかを鮮やかに照らし出しているといえよう。いままでもなく、米国のアジア・太平洋戦略体系の中に組み込まれている日米安保体制を守るためであり、そのため、非核三原則を犠牲

~~~~~  
(三頁から)  
から活動している。二月二十八日に佐世保を出たあと再びベトナム海域で活動、四月二十八日には横須賀に再入港(十二頁資料①)。この期間、フィリピンのスービック基地に五回、ホンコンに一回それぞれ寄港しているが、いずれも滞在日数は一、二日、五日と短く、核を下ろしたとは考えられない。

## 常に核任務を担って

さらに、「司令官報告」は、次のような記述によって、日本への核持ち込みを裏付けている。「アメリカ海軍の攻撃型空母の一つとして、タイコンデロガは与えられた任務のどの部分も瞬時に遂行しうる即応性と柔軟性を

にしておかないことである。タイコンデロガの「航海日誌」の受けとりを拒否して核持ち込みの事実には類被りをきめこむ、あられもない姿もそこに由来する。

デュプレおよびタイコンデロガに関する地元自治体の姿勢、運動側の対応について触れるつもりが、予定の枚数が尽きてしまった。次の機会に報告したい。◆

維持しなければならぬ。この任務にはアメリカ大統領が命じた時刻、場所に核攻撃を加えることのできる能力が含まれている(十三頁資料②)。日本の港に寄港するたびに核を降ろしては、タイコンデロガは与えられた任務を果たすことができなかつたのだ。

証拠は出そろった、出つくした、というべきだろう。核の有無をアメリカ自身があかさな以上、これで不十分というならば、「核爆発」以外の「証明」は不可能である。政府は大ウソをつき続けている。これは、「リクルート」にまさるともおとらない「スキャンダル」ではないのか。核疑惑解明のための「特別委員会」が国会に設置されるべきではないのか。横須賀市渉外部長は、ハンド

(タニグーニ中校へ)

# 資料① 空母タイコンデロガ年表 1965. 9-66. 5 (「司令官報告」より)

| 1965年 |                                                                   | 22-23 航行中。 |                     |
|-------|-------------------------------------------------------------------|------------|---------------------|
| 9/28  | 西太平洋に配備され、第5航空隊を伴って半年の航海のためサンディエゴを出発。                             | 24-31      | デキシー・ステーションで戦闘作戦。   |
| 10/1  | サンディエゴからパール・ハーバーに向け航行。                                            | 2月         |                     |
| 10/8  | ハワイ沖。                                                             | 1-17       | デキシー・ステーションで戦闘作戦。   |
| 11/1  | パール・ハーバーからフィリピン・スービック湾に向け航行                                       | 17-18      | フィリピン・スービック湾に向かう。   |
| 11/5  | デキシー・ステーションに到着(ベトナム南部沿岸のデキシー・ステーションと北部沿岸のヤンキー・ステーションを往復しながら作戦に従事) | 18         | フィリピン・スービック湾。       |
| 12/1  | ヤンキー・ステーション。                                                      | 19-20      | 日本の佐世保に向かう。         |
| 12/2  | 同海域を離れ休養のため横須賀に向かう                                                | 21-28      | 佐世保                 |
| 12/5  | 核兵器落下。                                                            | 3月         |                     |
| 12/7  | 横須賀に到着(8時30分)。                                                    | 1-2        | フィリピン・スービック湾に向け航行。  |
| 12/16 | 横須賀を出発。特殊作戦海域に向かう。                                                | 2          | フィリピン・スービック湾。       |
| 12/22 | 艦載機がベトナム攻撃。                                                       | 2-5        | 航行。                 |
| 12/23 | ヤンキー・ステーションに到着。                                                   | 5-31       | 南シナ海およびトンキン湾にて戦闘作戦。 |
| 12/25 | デキシー・ステーションに向かう。クリスマス休戦。                                          | 4月         |                     |
| 12/26 | デキシー・ステーションに到着。                                                   | 1          | トンキン湾にて戦闘作戦。        |
| 1966年 |                                                                   | 1-2        | フィリピン・スービック湾に向けて航行。 |
| 1月    |                                                                   | 2          | フィリピン・スービック湾。       |
| 1-13  | デキシー・ステーションで戦闘作戦。第9空母艦隊司令官が乗艦。77.5任務部隊司令官、第5航空隊司令官が乗艦。            | 3          | ホンコンに向かう。           |
| 13-14 | フィリピン・スービック湾に向け航行。                                                | 4-8        | ホンコン                |
| 15    | フィリピン・スービック湾。第9空母艦隊司令官下艦。                                         | 9-10       | トンキン湾に向け航行。         |
|       |                                                                   | 10-21      | トンキン湾にて戦闘作戦。        |
|       |                                                                   | 21-22      | フィリピン・スービック湾に向け航行。  |
|       |                                                                   | 23-24      | フィリピン・スービック湾。       |
|       |                                                                   | 25-27      | 横須賀に向け航行。           |
|       |                                                                   | 28-30      | 横須賀                 |
|       |                                                                   | 5月         |                     |
|       |                                                                   | 1-2        | 横須賀                 |
|       |                                                                   | 3-12       | アメリカ大陸に向けて航行。       |

## タイコンデロガの

### 核任務

資料② 「司令官報告」より

C. 特記事項

#### 1 一般

米海軍の攻撃型空母の一隻としてタイコンデロガは、与えられた任務のどの部分をも同時に遂行しうる即応性と柔軟性を維持しなければならぬ。この任務には大統領が命じた時刻、場所に対して核攻撃を加える能力が含まれている。しかし、他の米艦隊の攻撃型空母と同様、この能力はタイコンデロガにとっても「いつでも手元にある」ものではない。したがって、タイコンデロガはヤンキー・ステーションでの定期的な戦闘および東南アジア情勢からの要請に備えるための訓練に重きを置いている。

米第七艦隊が担う作戦上の重要性は、常により多くの攻撃型空母を極東に配備すること

を必要としている。この結果、同艦隊所属の全ての攻撃型空母の作戦の比重が増し、これに対応して、実質的に海軍航空戦力のすべての構成要素にとって、母港に滞在する時間はより短いものとなっている。同時に、空母一隻が維持するあらゆる統計的数字も増加している。この追求されるべき統計的数字は、今日の近代的海軍に属する他の空母にも適用されるものである。しかし、タイコンデロガが「飛行甲板の小さい」空母であり、艦齢二十二年を越えた、最後に残ったエセックス級攻撃型空母の一隻であるという事実を考慮に入れば、これらの図式は、この「気位の高い貴婦人」に乗り組んだ男たちの力量が賞賛に値するものであることを示しているものと思われる。(訳 編集部)

(「ハービー」下段より)

ラー氏の提出した資料の受け取りを拒否した。外務省も私たちの電話での打診に対して「受け取れない」と回答した。国民、市民が真実を知ること、彼らの「民主主義」とは一体何なのか。

繰り返そう。証拠は出そろった。出つくした。あとは、市民の声と行動の出番だ。(た)

#### 資料③

### 「航海日誌」より

(抜粋)

●12月16日

これまでどおり航行。「1143」操舵事故訓練を実施。「1300」乗員削減準備態勢(CREW-1 REDNESS)を設定。「1335」区画B-0205-13Eにおいて電気火災が発生。「1341」鎮火。「1358」乗員削減部署(CREW STATIONS)に人員を配置。「1450」VA56所属のA4E航空機(BuNo 151022)を第二格納室から第一エレベーターへ巻き上げ中、パイロットのD.M.ウェブスター(海軍中尉(認識番号USN 668086))を乗せたままエレベーターから転落、同機は北緯27度35'、2分、東経131度19'3分の水深2700フィート(4900メートル)の海中に沈んだ。署名

●12月18日

「04108」これまでどおり航行。「0436」062度Tに航路変更。「0458」17ノットに速度変更。「0543」060度Tに航路変更。「0614」12ノットに速度変更。「0614」東京湾に入る。入港しながら、航路、速度を様々にかえる操縦を開始。「0645」特別海上停泊細目(SPECIAL SEA ANCHOR DETAIL)を設定。「0700」水先案内人カーター大佐乗艦。「0830」本艦は日本国横須賀海軍基地の12号バース、ビードモント埠頭に右舷をつけ、艦首および艦尾のワイヤを用いた8ライン係留方式で係留された。<08:42>当直将校は監視場所を後部甲板に移した。署名

## 会計報告

(89.10.11~10.28)

### [収入]

|            |                                                                                                                                                                                                                                                        |      |        |      |        |      |   |      |       |      |        |
|------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|--------|------|--------|------|---|------|-------|------|--------|
| ○前月からの繰越   | △171,795                                                                                                                                                                                                                                               |      |        |      |        |      |   |      |       |      |        |
| 経常繰越       | 78,205                                                                                                                                                                                                                                                 |      |        |      |        |      |   |      |       |      |        |
| 借入金繰越      | △250,000                                                                                                                                                                                                                                               |      |        |      |        |      |   |      |       |      |        |
| ○今月の収入     | 165,272                                                                                                                                                                                                                                                |      |        |      |        |      |   |      |       |      |        |
| 会費収入       | 95,000                                                                                                                                                                                                                                                 |      |        |      |        |      |   |      |       |      |        |
| 内          | <table border="0"> <tr> <td>    維持団体</td> <td>12,000</td> </tr> <tr> <td>    維持個人</td> <td>36,000</td> </tr> <tr> <td>    参加団体</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>    参加個人</td> <td>9,000</td> </tr> <tr> <td>    通信会員</td> <td>38,000</td> </tr> </table> | 維持団体 | 12,000 | 維持個人 | 36,000 | 参加団体 | 0 | 参加個人 | 9,000 | 通信会員 | 38,000 |
| 維持団体       | 12,000                                                                                                                                                                                                                                                 |      |        |      |        |      |   |      |       |      |        |
| 維持個人       | 36,000                                                                                                                                                                                                                                                 |      |        |      |        |      |   |      |       |      |        |
| 参加団体       | 0                                                                                                                                                                                                                                                      |      |        |      |        |      |   |      |       |      |        |
| 参加個人       | 9,000                                                                                                                                                                                                                                                  |      |        |      |        |      |   |      |       |      |        |
| 通信会員       | 38,000                                                                                                                                                                                                                                                 |      |        |      |        |      |   |      |       |      |        |
| カンパ収入      | 18,000                                                                                                                                                                                                                                                 |      |        |      |        |      |   |      |       |      |        |
| 行動収入       | 0                                                                                                                                                                                                                                                      |      |        |      |        |      |   |      |       |      |        |
| 資料収入       | 52,272                                                                                                                                                                                                                                                 |      |        |      |        |      |   |      |       |      |        |
| 反核ホットライン収入 | 0                                                                                                                                                                                                                                                      |      |        |      |        |      |   |      |       |      |        |

### [支出]

|            |          |
|------------|----------|
| ●今月の支出     | △110,571 |
| 家賃(11月分)   | 50,000   |
| 水道光熱費      | 5,000    |
| 電話代        | 0        |
| 郵送費        | 34,811   |
| 文具代        | 0        |
| 印刷費        | 19,000   |
| 行動費        | 0        |
| 資料経費       | 0        |
| 反核ホットライン経費 | 0        |
| 郵便振替等手数料   | 1,760    |
| ●次月への繰越    | △117,094 |
| 経常繰越       | 132,906  |
| 借入金繰越      | △250,000 |

タイコンデロガの元乗組員が来日

# 各地で証言集会

「煙を噴きながら、水爆は沈んでいった」  
一九六五年当時タイコンデロガの乗り組み員  
で、事故の目撃であるウイリアム・レーン氏  
が札幌弁護士会の招きで来日し、札幌(十一  
月三〇日)、東京(二十九日)、横浜(十二  
月一日)で証言集会が開かれる。主催は各地  
弁護士会。このうち横浜の集会は「非核三原  
則と情報公開―タイコンデロガの証言」と題  
され、会場などは次のとおりである。

- とき 十二月一日(金)午後六時半
- ところ 横浜開港記念会か会館  
(JR関内駅下車徒歩五分)
- 内容 証言 ウイリアム・レーン氏  
講演 梅林宏道氏
- 入場無料

## 月刊反トマホーク通信 第四十九号

一九八九年十一月二十日発行(通巻五十号)

\*発行 トマホークの配備を許すな! 全国運動  
〒一五〇 東京都渋谷区渋谷二一五一九  
バル青山五〇二 トマ喰い虫社

◎三(四九八)六〇九五  
◎四四(六三)五一〇一  
FAX〇四四(六三)九九〇七  
郵便振替 東京六一三六一四八  
\*編集 反トマホーク通信編集委員会  
\*定価 一〇〇円(通信会員年間二〇〇円)

## 求人! スタッフ、助っ人

- 編集から印刷、発送まで「反トマ通信」はすべて手  
作りです。ミニコミ作りに興味あるひと、平和運動の  
新しい情報に触れてみたいひと、イラストやデザイン  
をやってみようかなというひと、とにかく何かやりたい!  
!と思っているあなた、いっしょにやりませんか?
- 発送も手伝って下さい。毎月20日直後の日曜日、ト  
マ喰い虫社の分室(東横線日吉駅下車044(63)5101)  
でやります。

次回の予定 終ったおは忘年会だ〜

12月24日(日) 午後2時から